

「たら」「ば」「と」「なら(ば)」構文

大島 弘子

Hiroko Oshima

はじめに

「たら」「ば」「と」「なら(ば)」は、日本語の条件表現に使われる代表的な形式である。今までも多くの学者によって、これらの形式の相違について数々の研究が発表されてきたが、私は二年間本大学校で韓国人日本語学習者に接する機会を得たので、その好機を利用し、彼等の誤用例も用いながら、私なりにこの形式の違いを整理し、まとめて見たいと思う。

現在、学校文法では、「た」は、「過去・完了」を表わす助動詞「た」の假定形、「ば」は、動詞・形容詞の假定形につく接続助詞、「と」は用言の終止形につく接続助詞、「なら」は、断定の助動詞「だ」の假定形として、品詞の上では区別されているが、日本語教育の立場からは、条件表現全体の異同を理解習得させるために、4つとも条件を表わす接続助詞としてその違いを説明するのが良いと思う。

又、「なら(ば)」の中には、二種類のものが存在する。一つは、(a)名詞・形容動詞につく「なら(ば)」、もう一つは(b)動詞や形容詞の終止形につく「なら(ば)」である。

1a 黒田は、一安心したが、ここまで来たからには、ほんとにニセ税務職員なのかどうか、もしニセなら、なぜそんなことをしているのか、本業はなになのかそれも調べずにはおれない。
(週刊サンデー毎日 1983年7月31日号 p70)¹⁾

1) 用例の出所については、初回のみ、作者、作品名、ページ出版社名を、雑誌の場合は、雑誌名、ページを記したが、二回目以降は、略式を使った。

1b 萩本：「略」だから局長さんに言ったの。「差し入れの果物をみんなで食べても 三〇
 兆とった感じがしないから、三万円で果物いっぱい買うなら」²⁾、その分を現金で下さい。
 みんなでクジ引きますから」(週サ p43)

ここでは、(a)の「なら(ば)」は、接続助詞「ば」が名詞、形容動詞についた時の特別な形式であり「～であれば」と意味的に同じもの、(b)の「なら(ば)」は、別の接続助詞として見る。³⁾ 本稿の題目で「なら(ば)」としたのは、(b)の「なら(ば)」のことである。

以上の形式を表にして整理して見ると次の様になる。

表 1	たら	と	ば	なら(ば)
動 詞 (する)	したら	すると	すれば	するなら(ば)
形容詞 (あつい)	あつかったら	あついと	あつければ	あついなら(ば)
形容動詞 (きれいだ)	きれいだったら	きれいだと	きれいであれば きれいな(ば)	
名詞 + だ (学生だ)	学生だったら	学生だと	学生であれば 学生なら(ば)	

I. 主節 (Q 節) の述語が現在形の場合

(1) 語用例の検討

本稿題目の形式を使った実際例を見ると、ある非現実 (未定) の事態 P の実現が、他の非現実 (未定) の事態 Q の実現の条件となるという仮定表現の場合以外にも、既定の事態 P の実現がきっかけとなって Q の事態が生ずる既定条件の場合がある。又、既定条件の場合にも、Q が未来のこと (現在も含む) か、過去のことか、二つの場合がある。これらは、わけて考察すべきものであるが、この稿では、主節の形式に着目して、主節の述語が現在形か、過去形かによって、章を二つに分けた。

まず、韓国語日本語学習者の誤用例を、二、三あげてみよう。

2a 私は、卒業すれば、日本でべんきうする予定です。

2b この次、日本語が上手になると、もう少し詳しく私の紹介を書いてあげましょう。

2) 「なら(ば)」には、「買うなら」のように直接動詞に接続する場合と、助詞「の」をはさんで、「買うのなら」のようになる場合がある。又、「なら(ば)」のように「ば」とともに用いる形と、「なら」だけで用いる形がある。

3) 通時的な用法、意味的な用法の2つの点を考慮して、このようにわけた。

2c こちらの事情がうまく行くと、日本へ行って本格的な勉強をしようと前から思って来ました
が……………

2aを

2a' 私は、卒業したら、日本でべんきょうする予定です。

2a'' 私は、卒業してから、日本でべんきょうする予定です。

とすると、文法的である。これは何故であろうか。「日本で勉強する」という事態は、「卒業する」という事態が完了して初めて成立可能になるわけである。つまり、後件Qは、前件Pの完了を条件として成立するために、「たら」という形式を要求するのではないか。

鈴木(1980) p218は、

- 京都へ行ったら、先輩のところへ行こう。
(意志)
- 京都へ行ったら、石庭を見に行きなさい。
(命令)
- 京都へ行ったら、つけ物を買ってきてください。
(依頼)

のように

- ① 後件に意志や命令や依頼の表現がくる
- ② 前件と後件の主体が同じである
- ③ 前件が完了を表す動作性の表現である

三つの条件を満たす場合は、「ば」でおきかえることができないようであると書いている。2aの予定も意志の中に含めて考えることもできる。

又、寺村(1981) p 71は、『「たら」は、単に時間が経過すれば当然実現するような事態に使うのに適しているということがいえそうである。』と書いているが、2aの場合も、「卒業する」は、単に時間が経過すれば当然実現する事態だと考えられる。もし成績が悪くて、卒業が覚束無い場合は、「卒業できる」という風に表現するであろう。

ところが、2aの場合、「ば」を用いると、「卒業する」かどうかははっきりしていない、つまり「卒業しない」という可能性も含んでいる文になってしまうので、おかしく感じられるのではないか。John Hinds and Wako Tawa (1975~76)が、「ば」文の前件Pに an unmentioned alternative が含意されているというのは、この点を指摘したのであろう。つまり、「卒業すれば、日本へ行く」の裏には、「卒業しなければ日本へ行かない」という意味があり、この点で、PとQとの間に必然的結びつきがあると言える。

2b の場合もやはり

2b' この次、日本語が上手になったら、もう少し詳しく私の紹介を書いてあげましょう。

は、問題ないが、

2b'' ? この次、日本語が上手になれば、もう少し詳しく私の紹介を書いてあげましょう。

は、ぎこちない。これも「なる」が、無意志動詞ではあるが動作性の表現であるから、鈴木³の三条件をみたしている例である。

2c の場合は、

2c' こちらの事情がうまく行ったら、日本へ行って本格的な勉強をしようと前から思って来ましたが……………

2c'' こちらの事情がうまく行けば、日本へ行って本格的な勉強をしようと前から思って来ましたが……………

2c' も 2c'' も問題がないのは、鈴木³の条件②「前件と後件の主体が同じである」を満たしてないからだと考えられる。

(2) 検討の結果として、「たら」と「ば」と「と」の違い

以上、韓国人日本語学習者の誤用例を、二、三検討してわかることは、「ば」も「たら」も、非現実（未定）の事態の実現を仮定する働きはもっているが、「ば」には「たら」のような完了的意味合いはない、ということである。これは、「たら」と助動詞「た」との関係を考えれば、当然のことと言える。

ここで、具体例を検討すると、「たら」文のQ節に、P節の完了時点、又は、完了した事柄そのものを再び指し示すような要素が現われることがあることに気づく。

3a もし、夢に老賢人、太母と思われるようなイメージがあらわれたら、そこで、ある程度警戒する必要があるかもしれない。（秋山さと子、夢判断、p 207、講談社現代新書）

3b 同じように、巨人になったガリバーの夢のようなものを見たら、これは少々危険だと自戒して、たとえば、ガリバーの作者であるスウィフトの研究でもしてみたらどうであろう。（秋山 p 209）

こういう場合の「たら」は、「ば」で置き換えることは出来ない。

又、もう一つ、「ば」を用いた条件文の後件Qには、「たら」文の後件Qと違いムード⁴についての制約があるということがわかる。意志・命令・依頼を表わす文においては、鈴木（1980）

4) 事柄・叙述の内容や話し相手に對する話し手の態度を一定の文法形式で表したのもの

p 218 の三条件を満たす場合「ば」が使えないことは、すでに見た通りである。鈴木は、後件に「すすめ」「許可」「希望」などの表現が来る場合は、「ば」でも「たら」でも成り立つ、と書いているが

4 ??卵ヲ買エバ、冷蔵庫ニ入レテオイタホウガイイデス⁵⁾ (すすめ)

のように、「卵を買ったということが完了してから冷蔵庫に入れる」という完了的意味を表わす文は、「たら」でなければおかしい。次に、「と」文の後件Qのモードについて見てみることにしよう。結論から先に言えば、「と」文は、「ば」文よりもモードについての制約はきつい。寺村(1981) p 68の問題を参考にして整理すると。

- | | | |
|------------|---|----------------------------------|
| 5a
(意志) | { | ?? 雨が降ると、タクシーで行こう |
| | | 雨が降れば、タクシーで行こう |
| | | 雨が降ったら、タクシーで行こう |
| 5b
(依頼) | { | ?? 雨が降ると、迎えに来て下さい |
| | | 雨が降れば、迎えに来て下さい |
| | | 雨が降ったら、迎えに来て下さい |
| 5c
(命令) | { | ?? ゴハンヲ食ベルト 私ノ部屋ヘ来テクレ |
| | | ?? ゴハンヲ食ベレバ 私ノ部屋ヘ来テクレ |
| | | ゴハンヲ食ベたら 私ノ部屋ヘ来テクレ |
| 5d
(禁止) | { | ?? 犯人が入口から出て来ると、射ってはいけない |
| | | 犯人が入口から出て来れば、射ってはいけない |
| | | 犯人が入口から出て来たら、射ってはいけない |
| 5e
(許可) | { | ?? 抵抗するとその場で逮捕してもよい |
| | | 抵抗すればその場で逮捕してもよい |
| | | 抵抗したらその場で逮捕してもよい |
| 5f
(勧誘) | { | ?? 給料が入ルト、一緒ニ食事ヲシヨウ |
| | | ? 給料が入レバ、一緒ニ食事ヲシヨウ ⁶⁾ |
| | | 給料が入ッたら、一緒ニ食事ヲシヨウ |

5) 筆者自身の作例は、区別するために、漢字かたかなまじり文で書き表わした。

6) 給料が入るか入らないかわからない状態で、「もし給料が入ることになれば、一緒に食事をしよう」の意味ならば、可能である。

- 5 g (すすめ) {
 ?? 暇ガアルト、専門書ヲ読ンダ方ガイイデスヨ⁷⁾
 暇ガアレバ、専門書ヲ読ンダ方ガイイデスヨ
 暇ガアツタラ、専門書ヲ読ンダ方ガイイデスヨ
- 5 h (推量) {
 モット勉強ツナイト、アトデ困ルダロウ
 モット勉強ツナケレバ、アトデ困ルダロウ
 モット勉強ツナカッタラ、アトデ困ルダロウ

上の例で、「と」文がおかしくないのは、5 h の推量の場合のみであるが、意志を表わす時でも、意志形を用いない形は可能のようである。

- 5 i おとなしく引ッ込まないと殺すぞ
 (山崎豊子、白い巨塔、上巻 p 381 新潮社版)
- 5 j 手ヲアゲナイト打ツゾ

一般に、「と」の仮定性は、標題の形式の中でも一番弱いと考えられる。話し手の主観を表わす表現は、全部だめだとは言えないが、現われにくいということは確かである。

今まで見てきたところでは、「と」文が取ることができるのは、意志の一部(意向形をとらない形)と推量であった。

国立国語研究所は、「現代雑誌九十種の用語・用字」(1964)の中で、条件句を、①陳述的条件⁸⁾ ②前おき③客観的条件の三つに分類しているが、今、その中で陳述的条件を取り上げ調べて「と」で可能な例と、だめな例を見て見ると

- 6 a (希望) { 早く芽が出るといいな
 やはり、親切なやさしい人だといいが
- 6 b ?? 日本中の人々が、方言しか使えないということがあるとどうだろう⁹⁾
 (疑問)
- (質問) ?? 駅にはどう行くといいでしょうか
- 6 c (評価) { 会員でないとだめです¹⁰⁾
 ? 今カラ二年先ヲ読ンデすたあとスルトイイ¹¹⁾

7)「暇がある時はいつも」の意であれば可能

8)あとに、「いい」「いけない」「だめだ」「ならない」「どうか」など、評価を表わす語が續いて、全体として一つの述語に近い表現をつくるもの。

9)場合により質問とも考えられる。

10)まだ禁止というほど相手に對する働きかけがないように思う。

11)「すすめ」と言うほど相手に對する働きかけがあるかどうか迷う

相手への働きかけが強くなると、「と」は使えなくなるようである。もっと詳細にチェックしてみたら、あわない例がたくさんでてくるかもしれないが、大ざっぱに言うと、芳賀綏が「陳述とは何もの」¹²⁾で二つにわけた陳述の〈述定〉にあたる場合は、「と」使用の可能性があり、〈伝達〉の場合はだめ、と言えるのではないか。また、中間に属するものも認めなければならないかもしれない。

(3) 「と」と「ば」の一般条件文について

では、「と」が主に受け持つのは、どんな条件文かということになるが、代表的な例は、

- 7a 五ト四ヲタスト九ニナル
7b 九カラ五ヲヒクト四ニナル

のような、数学、物理などの恒常条件である。

又は、

- 8a 春ガ来ルト桜ガ咲ク
8b 私ハ、オ酒ヲ飲ムト、オシヤベリニナル

のような、習慣的、反覆的な事態を示すものである。これらの文は、前件Pの事態が成立すると、直ちに自然発生的に後件Qが成立するということを表わしている。だから、これらは未来のある時点に、ある事態が成立することを仮定している個別的仮定条件ではなくて、超時間的な一般条件である。この点で、個別仮定を担当する「たら」とは異なる。

上の7a、7b、8a、8bは、「と」を「ば」で置き換えることができるが、そこには、ニュアンスの違いがある。その違いを松下大三郎は、「標準日本口語法」のp 290で次のように説明している。

一言にして言えば「ば」は理論的で、「と」は実際的である。例えば、

- 甲 雨ふりに外へ出れば濡れてしまう
乙 こんな日に外へ出ると濡れてしまう
甲 だれでも酒を飲めば酔う
乙 私は酒を飲むと眠くなる

の(甲)は単純な理論である。出るか出ないかに関しては全く言わない。単に出れば濡れるというのである。濡れるだけの理由が有るからである。その理論は過去の経験によって帰納された知識であるにしても、単に帰納の結果を言うのであって、帰納の経路や経験の由来から独立している。(乙)は理論ではない。実際である。濡れるだけの理由が有るか無いかは別問題であ

12) 國語・國文 23巻 4號

って理由はとにかく実際濡れるのである。 経験の結果を表しても経験から独立していない。 経験を背景として働いている。(甲)は「飲む」と「酔う」との関係の一般人における因果的理論である。(乙)は「飲む」と「眠くなる」との関係は私一人における実際である。

「ば」と「と」の違いについての私の考察は、もっと色々な点を見た上で、もう少し後で述べることにする。

(4) 「と」の既定条件文について

今まで述べて来たのは、主節が現在形の場合で、前件Pが未定(つまりまだ起きていない)事柄を仮定したものであったが、ここで扱うのは、Pが発話以前に成立して、後件に対する条件(つまり、きっかけ、根拠、理由)を示すものである。これは普通、既定、又は確定条件と呼ばれるものであり、理由を表わす「ので」「から」などもこの中に含まれるべきであると思うが、本稿では扱っていない。次に既定条件の例をあげよう。

- 9a だからこそ、これだけ性の解放が中途半端に進むと、AIDSの日本上陸は当然あり得るとの同氏の冒頭の言葉に結びつくのだ。(週サ p 38)
- 9b 「———略———ですからこのAIDS、昔からの純潔を保て、一夫一婦性を尊重せよ、という人類の知恵を破ると、こんなに簡単に破滅するという警鐘だといえます」
(週サ p 38)
- 9c ドアを開けると、黄が大きな体でもがきながら立ちあがろうとする。(週サ p 68)
- 9d 行ってみると家はたしかにあり、向井浩の表札もかかっている。(週サ p 79)
- 9e お嬢さまがふたび庭下駄をはいて、飛石づたいにあるいてゆくと、鶴も前になりうしろになり、むらがってついてゆくのです。(国立国語研究所、現代語の助詞・助動詞 p110 秀英出版)
- 9f びしりときびしく鞭を打つように云い放つと、母はまたすゝと部屋から消えているのだ。(国研 p111)

例をずゝと見ていくと、前件Pが後件Qに対する条件(つまり、きっかけ、根拠、理由)を示すというより、PとQが単なる時間的同時性又は近接性を表わしているのではないかと 思える例がたくさんでてくる。「と」文のこういう点は、「と」文の主節の述語が過去の場合もあわせて考察するともっと明らかになる。

(5) 節の獨立度について

前件Pと後件Qの関係が、必然的、又は偶然的事であることの例証として、今までみてきた仮定条件、既定条件におけるP節の獨立度を調べてみることにしよう。つまり、P節の獨立度が高ければ高いほど、PとQの関係は希薄、つまり偶然度が高いということになる。

○ 丁寧の助動詞、「です」「ます」の使用から

三尾砂の「丁寧化百分率」¹³⁾によると、「と」の前の丁寧化は7.3%、「たら」の前では6%である。具体例を見てみよう。

10a 「もしもし、森田先生いらっし。いましたら、お願いします」(週サ p 66)

10b 「皆さん方から、どうぞ丁寧なお礼を云われますと、かえって恐縮しますよ、臨床的には皆さんの方がベテランだし、ご参考になりましたら幸いです」(山崎上 p 164)

10c 鈴木：女性ですと「金曜日にね、あ、そうじ。なかつた、あの友だちがいたから木曜日だわ、東京駅へ行って入り口で入場券買、たら、ああ、私の先生が久しぶりに東京へ来たから、その出迎えだから入場券でいいの。……」(週サ p 130)

10d 「何時も、病理検査や学位論文などで、うちの教室のものが、いろいろとお世話になっています。今日はまた乳癌疑診の組織検査をお願いして恐縮です。その結果がもう出ているようでしたら、直接、大河内先生のご意見を伺いたいと思って参ったわけです。」(山崎上 p 227)

「ば」の前ではどうかと言えば、「です」の活用は、仮定形を持っていない。「ます」の場合は、「ますれ」という形があることはあるが、口語で

10a'?? もしもし、森田先生いらっし。いまますれば、お願いします」

10b'?? 皆さん方から、どうぞ丁寧なお礼を云われますれば、かえって恐縮しますよ 一略一

10a'、10b'のように使われることは、まずないと考えられる。

「なら」の場合は

11 ?? オ嬢様ガソノヨウニオ美シイデスナラ(い)、キツト葉晴ラシイオ嬢様ガイラッシャルニ違イアリマセン」

は、おかしいが

11' オ嬢様ガソノヨウニオ美シウゴザイマスナラ、キツト葉晴ラシイオ嬢様ガイラッシャルニ違イアリマセン。

は、文法的である。

13) 主節が丁寧体である時、P節の述語が丁寧化する度合。

丁寧の助動詞使用から見た独立度は、丁寧の助動詞を使用することができない「ば」が一番弱いと考えられるのではないか。それだけ、前件と後件の結びつきが緊密で、「ば」が、個別的条件文においても、必然的な意味合いを表わすのは、このためであろう。

○ 言い切り文について

今、子供と母親の会話を考えてみると、

12 子供：オカアサン、イツゴハンヲ食ベルノ。

母親：12a オトウサンが帰ッテキタラネ。

12b? オトウサンが帰ッテクレバネ。

12c??オトウサンが帰ッテクルトネ。

12a は、子供の「いつ」という問いに対する答えとして「ある時点」を表わし得る点、「たら」は、「～た時」に近いということも言える。

12b がおかしいのは、「おとうさんが帰ってくればごはんを食べる」の裏に、「おとうさんが帰ってこなければごはんを食べない」の意が合意されているので、「いつ」という問いに対してひっかかるのではないか。これが例えば、到来物のメロンを見ながらの次の様な問いであればおかしくない。

13 子供：オカアサン、キョウコノめろんヲ食ベル。

母親：13a オトウサンが出張カラ今日帰ッテクレバネ。

13b??オトウサンが出張カラ今日帰ッテクルトネ。

「と」文は、前述したように、条件を表わすというよりも前件PとQが同時性、又は近接性を表わすという用法が主なものであるために、12c、13bのように後で条件をつけ加えるというような形式に使われにくいのだと思われる。

(6) 「たら」でだめな場合

今まで見て来た所では、「たら」文の主節のムードには制約がなく、条件文においては、一番広範囲に使われることがわかった。実際用例をあたってみても、「と」や「ば」を「たら」でおきかえ可能な場合の方が、その反対の場合よりはるかに多いことがわかる。では、どんな場合に、「たら」は使えないのだろうか。

まず、一般条件文がだめであることはすでにみた。

14? 1 = 1ヲタシタラ 2 = ナル

その他、次のような例がある。

15a 「死体がよけいにあったといわれると、何か妙ないい廻しにきこえますね」

(水上勉、飢餓海峡、p 13、新潮社版)

15a'?? 「死体がよけいにあったといわれたら何か妙ないい廻しにきこえますね」

15b 「新聞を拝見していますと、火事は質屋殺しの犯人の放火だと、はっきり決ったようですが、私に一人心あたりの男がいるんです……………」 (水上 p 36)

15b'?? 「新聞を拝見していましたら、火事は質屋殺しの犯人の放火だと、はっきり決ったようですが、私に一人心あたりの男がいるんです……………」

15c 城田がふと気付くと、車は繁華街へ行く反対の方向へ走っている。

(吉行淳之介、美小女、p 165 新潮社版)

15c'?? 城田がふと気付いたら、車は繁華街へ行く反対の方向へ走っている。

15a'、15b'、15c' の三つの文で「たら」を使うとおかしい原因は、「たら」が完了の意を含まれているところから前件Pと後件Qの時間的前後関係は、Pが完了してからQという順番にならなければいけないということにあるように思える。つまり、15aにおいて「いう」事態と「きこえる」事態、15bにおいて「新聞を読む」事態と「ようだと感じる」事態、15cにおいて「気付く」事態と「走っている」事態は、同時に成立するから、「たら」ではおかしいのであろう。

(7) 「なら(ば)」について

先にも触れたが、「なら(ば)」が動詞、形容詞につく場合、「のなら(ば)」のように「の」をはさむ場合と、はさまない場合がある。

「なら(ば)」が、今まで見て来た「たら」「ば」「と」と大きく違うのは、「Pなら(ば)Q」が、談話 (discourse) の最初にくることが出来ない点である。 実際例を見てみると、よくわかる。

16a そうだ、とぎんは思った。 男でなく女の医者に診られるのなら、こんなに苦しまなくても済む、喜んで治すことができる。 (渡辺淳一、花埋み、p 59、新潮社版)

16b 「鶴飼君、今の言葉は、ほんとかね、他ならぬ医学部長の発言だから重大だよ、そんなに財前五郎が、次期教授の呼び声が高いのなら、いっそついでに君が尻押しをして、教授に送り込んでしまっただけでいいよ」 (山崎上 p 167)

16c 「そうか、じ。あ、そこまで云ってくれるのなら、君たちの言葉に甘えて、任せるよ」 (山崎上 p 382)

16d 「君が、それほど自信をもって云うのなら、まず大丈夫だろう……………」 (山崎豊子、白い巨塔、下巻、p 89、新潮社版)

「そうだ」「そんなに」「そこまで」「それほど」などの表現は、先立つ談話との関係を示して

いる。が、P節が必ずしも前の談話の全部又は一部をくり返したものと言うわけではなく、J. H & W. T (1975～76) の述べるように、いつでも予側可能というわけではない。

16a, 16bのP節は、

16a' 「女の先生さ、女の先生に診られるんらいってことさ」

16b' 「お気持はよく解りますが、他のものと違ってああいっものを理由もなく受け取ると、妙な誤解を招きますのでね、第一、財前助教授の次期教授の呼び声が高く、教授選挙を前にしている時だけに、非常な誤解を招くわけです」

の下線部をほとんどそのままの形で繰り返したものだが、16c、16dの場合は

16c' 「先生、今になって、そんな弱気などおっし。って困りますよ、僕たちは先生と心中するつもりで、ここまでやって来たのです。財前先生あつての僕たちですから、自分たちの迷惑など、かまっておれません」

16d' 「君もくどいな、この間、云ったようにあの噴門癌は限局性のもので、転移などは考えられないよ、それに、あの隠影だって、僕の今までの経験と勤に基づいて、単なる結核の古い病巣に過ぎないと判断したんだから、大丈夫だ」

16c'、16d' を聞いた16c、16dの話し手が、その発話全体を「そこまで言ってくれる」「それほど自信をもって云う」と自分流に解釈したものである。その点で久野(1978)が、「PならQ」のPに含まれる断定の行動主が話し手ではなく聞き手、すなわち第二人称(あるいは人一般)であるとしているのには問題があると考えられる。

また、「Pなら(は)Q」のP節に関係する部分が、実際の談話の中にはなく、まわりの状況、つまり言外の状況にあると考えるべき例もある。ちょっと長いが引用してみよう。

16e 「動揺したり、義憤したり、そしていくら医局内統一をはかってみたって、形勢挽回には、何の役にもたへんやないの、それより形勢挽回に具体的に役だつ方策が必要やわ」
席をはずしていたケイ子が、何時の間に戻って来たのか、財前の背後にたっていた。
「ケイ子さんにそう云われると、一言もないな——」
佃は、鮮やかなエメラルド・グリーンドレスをまとったケイ子を、まぶしげに見上げながら、口ごもった。作戦会議と称して、頻繁に、バー・アラジンへ足を運んでいるうちに、佃と安西は、ケイ子が財前五郎の愛人であるらしい様子を見て取り、気のおけない間柄になっていたのだった。
「じ。あ、ケイ子さんなら、どうする?何か名案があるなら、教えて貰いたいな」

ケイ子は、名案があるとは一言も言っていない。形勢挽回に具体的に役だつ方策が必要だと言っ

ているだけだが、佃と安西は、その表情、話しぶり、態度などから、ケイ子が名案を持っていることを察知して、「何か名案があるなら」と言ったと考えられる。

他にも、次の様な状況が考えられる。

状況A：電話の前を行ったり来たりしている友達を見て

「ソナニ気ニナルナラ、コチラカラカケレバイノニ」

状況B：学生の落ち着かぬ様子を見て

「トイレへ行キタイナラ、行ッテモイデスヨ」

又、寺村(1981)は、「なら(ば)」を、条件—帰結というPとQの結びつけは話し手自身の主体性においてするのだが、その前提となる条件の中身については自分は責任を避けるという態度である、と書いているが、これは次の様な例をみると、的を射ていると思う。

次の例は、財前五郎が、自分の医局員が金沢へ行って自分の教授選のライバルである菊川教授に選挙をおりることをたのんだ、ということを知りながら、主任教授に尋ねられて知らないとしらさる場面である。

16f 「一略一、あれほど私が慰撫したのにもかかわらず、医局員の佃と安西が、ほんとうに金沢へ乗り込んでいくような拳に出たのなら、それは、よほど止むに止まれぬ気持だったからございましょう……」 (山崎、上 p 409)

次の例は、「患者離れが悪い」と批判された里見助教授の怒りを抑えながらの返事である。

16g 「僕は、自分が一度でも診た患者は、外科へ廻ろうと、泌尿科へ廻ろうと、完全に治癒するまで気になる性格なんだ、医者は、そうあってしかるべきだと思うが、それがいわゆる患者離れが悪いということになるのなら、それでもいいよ」

又、「Pなら(ば)Q」のQ節は、今まで見てきた例からも明らかなように、話し手の判断・意志・決意・要求・命令などを表わさなければならない。それは、「なら(ば)」が、前件を仮定して、その成立を前提として、話し手が取るべき判断を表わすものだからである。鈴木(1980)は、次のように言っている。

「たら」の仮定は事からそのものに即した仮定であり、その点で实际的である。

「なら」の仮定は判断に即した仮定であり、その点で思想的であると言える。

又、「たら」と違って、「なら(ば)」には完了の意味がないから、

17?? ソレヲ食ベルナラ、オナカガ痛クナルデショウ。

のように、Q節の事態が成立するためにはP節の事態の完了が必要な場合には使えない。

○ 今後の問題点

前述したように、「なら(ば)」文には、「の」をはさむ場合とはさまない場合がある。ほとんどの場合入れ変え可能であるが、「の」を入れるとおかしい場合もある。

18a 「プロフェッソール・サイゼン、今日あなたが、発表された体力の衰弱した食道癌の患者に対して手術を三期に分けて行なうという術式については、学会誌で拝読している限りでは正直なところ、半信半疑でしたが、今日の質問者への回答をお聞きしてやっと信じる事が出来ました、もしあなたの日程が許すならば、是非、われわれの大学で、あなたの手術の供覧をお願いしたい」 (山崎下 p 170)

18b 財前の眼に、歓喜が波だった。ドイツの外科学者を前にして、自分の手術を公開し、教授することは、日本を出発する時から、もしそうした機会を得られるならば、と、野心を燃やしていたことであった。」 (山崎下 p 171)

これを「のなら(ば)」とすると、おかしい。

18a' ? 「一略ーもし、あなたの日程が許すのならば、是非、われわれ大学で、あなたの手術の供覧をお願いしたい」

18b' ? 「一略ーもし、そうした機会を得られるのならば、と、野心を燃やしていたことであった。」

又、18aの例は、P節の指す部分が前のdiscourseの中のどの部分が断言するのが難しい例である。

筆者の今後の課題として、「もし」等の仮定表現文の中に使われる副詞と「なら(ば)」「のなら(ば)」の共起、「なら(ば)」「のなら(ば)」とdiscourseなどの点から、「なら(ば)」と「のなら(ば)」の違いを調べてみたい。

Ⅱ. 主節の述語が、過去形の場合

(1) 「ば」文について

「ば」文のQ節の述語が過去形である例を見ると、

- 19a 無理をして現実と関係づけようと思えば、できないことでもなかつたろう。
(秋山 p 187)
- 19b 夫に黄の評判を打ち明けて、そんな所には行くな、と言って欲しかった、とか、そもそもは木下に断ってもらえば良かったのだ、と後悔もする。(週サ p 67)
- 19c しかし、現に手術が成功し、術後の経過が順調であってみれば、それ以上にとやかくは云えなかった。(山崎下, p 113)
- 19d T字型に分れた中庭沿いの廊下を右へ曲れば、里見助教授の部屋へ通じる廊下であった。(山崎、下、p 206)
- 19e 柳原に処置を指示したのは自分であったから、柳原の処置に問題があったとすれば、それは自分自身に繋ることであった。

19a、19bは、過去の事実でない仮想、19d、19eは、確認、19cは過去の状態(又は確認)と考えられるが、「ば」文のQに動作性動詞の過去形が使われることはできない。

20a ?? 1 = 1 ラタセバ 2 = ナッタ

20b ?? 外へ出レバ 濡レタ

(2) 「なら(ば)」について

「なら(ば)」文のQ節には、過去形が現われるように見えるが、

21a 「一略—あれほど私が慰撫したのにもかかわらず、医局員の佃と安西がほんとうに金沢へ乗り込んで行くというような挙に出たのなら、それは、よほど止むに止まれぬ気持ちだったからでございます」(山崎、上、p 409)

21b 「君ニみすがナイナラ、田中君ガみすヲシタノダ」

この場合、「止むに止まれぬ気持ちだったから」「田中君がミスをした」と推測、断定しているのは発話時においてであり「でございます」「のだ」の形式である。「なら(ば)」文において、判断が過去形であれば変な文になる。

21b'?? 「君ニみすがナイナラ田中君ガみすヲシタノダッタ」

これは、「なら(ば)」がPを仮定して、その成立を条件として話し手が取るべき(発話時)の判断を表わすものだからである。

(3) 「たら」と「と」について

Q節の述語が過去形の場合、「たら」文と「と」文には共通する用法があるので、まずそれについて述べよう。

22a はっと腰を浮かせて振り向くと、グレーの麻の背広を着た財前教授が、カバンを提げて起っていた。(山崎、上 p 200)

22b 一略一水力発電の装置のようなものにまきこまれた。これは危険だ思っていると、小魚は翼をつけて、飛魚となり、水の落下速度よりも速く、飛ぶように泳いでいった。(秋山 p 166)

22c 教室員たちと別れ、桜橋の交叉点のところまで来ると、財前は、そのまま、まっすぐ阪急に出て、家へ帰ろうか、それとも——と、迷った。(山崎、上 p 27)

23a 同じ夜に、つつけて見た夢は、谷を渡ろうとしているが、橋が見つからないという設定でやっとな橋を見つけて渡ろうとしたら、その真中に宝玉が坐っていた。(秋山、p 176)

23b この場合に、浦島が玉手箱をあけたら急に年老いてしまったという悲しい結末は一略一(秋山 p 164)

23c 薬屋ノ前マデ来タラ、雪ガ降り出シタ

これらは、前件Pの事態と後件Qの事態が偶然同時に、又は近接して起ったことを表わした文で、そこには「ば」文の前件と後件が持つような必然的な結びつきはない。よって、後件Qには意志的な表現は現われることなく、22a、23aにおいてPはQの偶然的発見のきっかけ、22b、23bにおいてPはQの予想外の事態が起こるきっかけを表わし、22c、23cにおいては、前件Pが後件Qが起こる時間的状況を表わすものである¹⁴⁾

23cは「と」に置き変えても問題はないが

23c' 薬屋ノ前マデ来ルト雪ガ降り出シタ

22cを「たら」で置き変えると少しきこない感じがするが、この理由についての私の考えは、後で書くことにする。

22c'? 教室員たちと別れ、桜橋の交叉点のところまで来たら、財前は、そのまま、まっすぐ阪急に出て、家へ帰ろうか、それとも——と、迷った。

この他、「と」文には、「たら」文では置き変えることができない継起的な用法がある。

24a 東は病院の正面玄関へ出ると、玄関橋に駐車しているタクシーを拾い、御堂筋を心齋橋の方へ向って車を走らせた。(山崎、上 p 17)

24b 万年はそういうと、もう決めたも同然に、そのことを綾三郎にも告げに萩野家を出ていった。(渡辺、p 25)

これらは、「て」で置き変えることはできるが「たら」では置き変えられない。

14) 時間的条件を表わす文の「と」「たら」は、「～た時」で置きかえることができる。

鈴木(1980)は、この時間的継起の表現は、次の三つの条件が満たされた場合にのみ成立すると書いている。

- ① 過去のできごとであること
- ② 前件も後件も意志的な動作であること
- ③ 前件と後件の主体が同一であること

しかし、実際例をあたってみると、この三つの条件を満たさない場合でも、「たら」で置きかえるとおかしい場合が出てくる。

25a 気さくな王女は、公式写真撮影が終わると記者たちと歓談された。(週サ p 125)

25b 俺も財前家の養子婿にならなければ、この青年と同じようにあたら才能を持ちながら和歌山などへ出、医学者としての輝やかなコースを失ってしまうところであつたかもしれないと思うと、財前はいやな過去を忘れるように、ぐいとハイボールのグラスをあげ、話題を変えた。(山崎、上、p 26)

25c なるほど、財前五郎は助教授として有能であるし、自分のために医局の雑務一切を引き受け、教室の業績を上げることに力を尽くしてくれたが、それは、何も財前五郎に限ったことではない。どの科の助教授も同じように働き、教授の椅子を得るためには誰もがどうしても通過しなければならぬポジションであるに過ぎない。そう思うと、東は眉を開き、机の上の電話器を取り上げた。(山崎、上 p 14)

25d 佃は、午後の外来診察を終ると、昨夜財前助教授としたたか飲んだ二日酔いの頭を軽く振り、病院の中庭へ出た。(山崎、上、p 206)

これらの例は、Qが意志的動作であり、Pがそうでないものである。又25a、25dの場合は、前件と後件の主体も異なる。

25a の場合

25a' 気サクナ王女ハ、公式写真撮影ヲ終エテ記者タチト歓談サレタ。

25a'' 気サクナ王女ハ、公式写真撮影が終ッたら、急ニ普段ノ顔ニモドッタ。

25a' のように、前件も後件も意志動詞であつたら、これは鈴木(1980)のいう時間的継起の条件にあてはまるし、25a'' のように後件が(話し手の目からみて意志の人らない)偶然的でき事であれば、「たら」で問題がない。

つまり、「と」文は、Qの述語が過去の時、その動詞が、表Ⅱのア、イ、ウ、エの四つの場合すべてに用いられるが、「たら」は、イ、エのみ、「て」はアの時のみ「と」文に置き換えられる。

表Ⅱ

節	P	Q
ア	意志的	意志的
イ	無意志	無意志
ウ	無意志	意志的
エ	意志的	無意志

故に、ウの場合、「たら」でも「て」でもおかしくなるのではないか。ウ文の場合は「無意志で起った前件をきっかけにして意識的にQをしたという意味になり、前件と後件との偶然的結びつきを表わす「たら」は使えなくなるのであろう。又、ウの場合、Qを中心に見ると、前件Pが、後件Qの成立する時間的狀況を表わす場合に近くなり、

25a^m 気さくな王女は、公式写真撮影が終わってから記者たちと歓談された。

25b^l 一略一医学者としての輝やかなコースを失ってしまうところであったかもしれないと思
った時、財前はいやな過去を忘れるように、ぐいとハイボールのグラスをあけ、話題を変えた。

25c^l 一略一そう思った時、東は眉を開き、机の上の電話器を取り上げた。

25d^l 佃は、午後の外来診察が終わってから、昨夜財前助教授としたたか飲んだ二日酔いの頭を軽く振り、病院の中庭へ出た。

の様な言い換えが可能のように思う。

前に、23c^lが文法的で、22c^lがぎこちない文であったのは、22c^lも23c^lもPが意志動詞Qが無意詞動詞であり本来なら「たら」が使えるはずなのだが、23c^lの場合、前件と後件の結びつきに何ら主体の意志が働いていないのに比べて、22c^lの場合、「迷う」のは、その場所に来たこと(つまり、そこで道をどちらかに選択しなければいけないから)と関連があるわけで、その点、PとQの結びつきに主体の意志が働いていると考えられる。

先程、表Ⅱにおいて「たら」の受け持ち範囲は、イとエだと書いたが、もっと厳密に言えば、エの中でも、PとQの結びつきに主体の意志が幾分かでも働くものは、だめだと言えようである。

その点、「と」は、意志的、無意志的ということに関わりなく、同時性、近接性を表わすPとQはすべて結びつけてしまうようである。

(4) 「て」と「と」について

先に、鈴木(1980)の三条件を満たす場合、「と」は、「て」で置き換えられることを述べたが「と」文と「て」文の違いについては、三上(1979)が、次の様な指摘をしている。

- 1) 太郎が上着を脱いで、ハンガーにかけた
- 2) 太郎は上着を脱いで、ハンガーにかけた
- 3) 太郎が上着を脱ぐと、ハンガーにかけた
- 4) 太郎は上着を脱ぐと、ハンガーにかけた

の中で、3)だけが、ハンガーにかけたのがだれだかわからない。これは、主格「が」の勢力が「と」までしか及ばないことと、「と」文のP節のQ節に対する従属度が、「て」文のP節より低いことを意味する。又

- 26 「そうですよ」と言い、「余計なことを言う」気分で、城田は余志子を睨んだ。それが、一層疑わしげな雰囲気をかもし出してしまう。 その気配を救おうと思って、マダムの圭子が口を出した。(吉行淳之介、美少女P 49新潮文庫)

は、「と」では置き換えられない。

- 26'?? 一略—その気配を救おうと思うと、マダムの圭子が口を出した。

これは、26の「思って」が積極的に意図を明確に出しているのと異なり、26'の「思うと」が漠然とPとQの前後関係を結びつける働きだけしか受け持たないためだと考えられる。この文においても、三上(1979)の指摘通り、26では、「思った」人物と、「口を出した」人物が圭子であることは確かだが、26'では、「思った」のが「話し手」である可能性もある。

まとめ

I. 主節の述語が現在形の場合

「PとQ」は、前件Pの事態が成立すると直ちに自然発生的にQが成立するという意味合いの文であり、Q節に話者の主観的態度(特に、相手への働きかけを含むもの)を表わす形式が来にくく、個別仮定性が弱い。

「PばQ」は、P節とQ節の関係が必然的である点、「PとQ」に重なるが、Q節のムードの制約は「PとQ」よりゆるく、故に個別仮定性は「PとQ」より強い。

「P たら Q」は、Q にムードの制約がなく、P 節と Q 節の関係は偶然的である。故に個別仮定性は最も強い。Q 節の成立のためには、P 節の完了が条件とされる。

「P なら Q」は、前件を仮定して、その成立を前提として話し手の取るべき態度（判断・意志・決意・要求・命令など）を表わす。故に、Q はそのような形式を取らなければならない。又、談話の最初に、「P なら Q」文が来ることはない。

II. 主節の述語が過去形の場合

「P ば Q」は、Q 節に、動作完了を表わす過去形が来ることはない。過去の事実に反する仮想、確認、過去の状態が来ることはある。

「P なら Q」は、発話時の態度（判断等）を表わすものであるから過去形が来ることはない。

「P たら Q」は、前件 P と後件 Q が、偶然同時に又は近接して起こったことを表わす。前件と後件の結びつきに主体（話者）の意志は働かない。

「P と Q」は、前件と後件の結びつきに意志が働いても働かなくても、同時性、近接性、継起性を持った二つの事態をただ漠然と結びつける。I で前件と後件が持っていた必然的結びつきは、この場合にはない。「と」の本質的機能は、条件表現ではなくて、このような漠然とした結びつきにあると考える。

参 考 文 献

(a , b , c 順)

John Hinds and Wako Tawa " Conditions on conditionals in Japanese "(1975
- 76, Papers in Japanese Linguistics Volume 4)

国立国語研究所『現代語の助詞・助動詞』(1982、秀英出版)

久野 暉『日本文法研究』(1978、大修館書店)

三上 章『文法小論集』(1979 くらしお出版)

鈴木 忍『教師用日本語教育ハンドブック③』(1980 国際交流基金)

寺村秀夫『日本語教育指導参考書』(1981、国立国語研究所)

渡辺 実『国語構文論』(1979、塙書房)

〈국문초록〉

I. 主節의 述語가 現在形인 경우

「PとQ」는 P節의 事態가 成立하면 즉시 自然發生的으로, Q節이 成立한다는 意味를 文章이며, Q節에 話者의 主觀的인 態度(特히, 相對方에의 作用을 포함해서)를 나타내는 形式이 오기 어려우며, 個別假定性(未來의 어느 한時點을 假定하는 用法)이 弱하다.

「PばQ」는 P節과 Q節의 關係가 必然的인 點에서 「PとQ」의 文型과는 重複되지만, Q節의 mood의 制約은 「PとQ」보다 부드러우며, 따라서 個別假定性은 「PとQ」보다 강하다.

「PたらQ」는 Q節에 mood의 制約이 없고 P節과 Q節의 關係가 偶然的이다. 따라서 個別假定性이 가장 강하다. Q節이 成立하기 위해선 P節의 完了가 條件이 된다.

「PならQ」는 P節을 假定, 그 成立을 前提로하여 話者가 취해야 할 態度(判斷, 意志, 決意, 要求, 命命등)을 나타낸다. 따라서 Q節은 그러한 形式을 취해야 한다. 또 對話의 서두에 「PならQ」의 文章이 오는일은 없다.

II. 主節의 述語가 過去形인 경우

「PばQ」는 Q節에 動作完了를 나타내는 過去形이 오는 일은 없다. 過去의 事實에 反對되는 假想, 確認, 過去의 狀態가 오는 일은 있다.

「PならQ」는 對話를 시작할때의 態度(判斷등)을 나타내는 것이기 때문. 過去形이 오는 일이 없다.

「PたらQ」는 前半의 P節과 後半의 Q節이 偶然히 同時에, 또는 近接해서 일어나는 일을 말한다. P節과 Q節의 接續에 主體(話者)의 意志는 나타나 있지 않다.

「PとQ」는 P節과 Q節의 接續에 意志가 나타나 있거나 나타나 있지 않거나 간에, 同時性, 近接性 繼起性을 가진 두개의 事態를 단지 漠然하게 이어준다. I에서 P節과 Q節이 가지고 있던 必然的인 接續관계는 II의 경우에는 없다. 「と」의 本質的인 機能은 條件表現이 아니고, 이와같이 漠然한 接續關係에 있다고 생각한다.